

## 第4章 植生の多様性と分布

### 1

### 植生とその成り立ち



- (1) ある場所に植物が生息している時、その場所を覆っている植物全体を何というか。
- (2) 植生全体の外観を何というか。
- (3) 地表を広く覆うなど量的な割合が高い種を何というか。
- (4) 密に生えた樹木が相関を特徴付ける、降水量が多い地域に成立する植生。
- (5) (4) の構造部位で、(4) の最上部のことを何というか。
- (6) (4) の構造部位で、(4) の地面に近い場所を何というか。
- (7) 日なたの光のところによく生育する植物。
- (8) 比較的光の弱いところでも生育できる植物。
- (9) 単位時間あたりの植物の光合成量。
- (10) 単位時間あたりの植物の呼吸量。
- (11) 光合成量と呼吸量が釣り合い、見かけ上二酸化炭素の出入りがなくなる時の光の強さを何というか。
- (12) (11) 以上の光の強さにおける、二酸化炭素の吸収速度を何というか。
- (13) ある光の強さ以上では、いくら光を強くしても二酸化炭素の吸収速度が変化しない。この時の光の強さを何というか。
- (14) 日当たりの良いところにつく葉を何というか。
- (15) 日当たりがよくないところにつく葉を何というか。
- (16) 降水量が少なく、樹木が育成できないような領域に広く発達している、草本植物を中心とする植生。
- (17) 厳しい環境に適応した草本植物などがまばらに点在する、鉱山や極地、溶岩流の跡地などに見られる植生。

## 第4章 植生の多様性と分布

### 2

### 植生の遷移



- (1) 植生が時間と共に移り変わり、一定の方向性をもって変化していく現象。
- (2) 植物の生育にとって厳しい環境である裸地へ最初に侵入する植物。
- (3) 遷移初期に現れる種類の樹木。
- (4) ひなたでの生育に適した樹木。
- (5) 遷移の後期に現れる種類の樹木。
- (6) 芽生えや幼木の時には耐陰性が高く、成木になると強い光のもとでよく成長する樹木。
- (7) 極相樹種を中心とした森林。
- (8) 台風などで林冠を形成する樹木の幹や枝が折れたり、樹木が倒れたりして林床に光が届く場所。
- (9) 土壌が全くない裸地から始まる遷移。
- (10) それ以前に存在した植生が作り出した土壌や種子、土壌動物などを一部引き継いだ形で開始する遷移。

## 第4章 植生の多様性と分布

### 3

### 気候とバイオーム



- (1) 植生とそこに生息する動物などを含めた生物のまとまり。
- (2) 主に常緑広葉樹からなる、熱帯の降水量の多い地域に分布する森林。
- (3) 亜熱帯の気候で、熱帯多雨林よりも樹高が低く、森林を構成する種類が少ない森林。
- (4) (3) の森林地帯で代表される、樹木の名前は。
- (5) 熱帯や亜熱帯で雨季と乾季がはっきりと分かれている地域に分布する森林。
- (6) 熱帯の中でも年平均気温が比較的に高い暖温帯に分布する森林。
- (7) 温帯の中でも地中海沿岸のように夏に乾燥し、冬に雨の多い地域に分布する森林。
- (8) 温帯の中でも平均気温が比較的に低い冷温帯に分布する森林。
- (9) ユーラシア大陸から北アメリカ大陸の北部に広がる亜寒帯に分布する森林。
- (10) 熱帯や亜熱帯で年間降水量の少ない地域に存在する草原。
- (11) 温帯の内陸部に分布する草原。
- (12) 熱帯や亜熱帯で降水量が極端に少ない地域に分布する地帯。
- (13) 地下には永久凍土が存在する、北極圏などの艦隊に分布する地帯。
- (14) 緯度に応じたバイオームの水平方向の分布のことを何というか。
- (15) 標高に応じたバイオームの垂直方向の分布のことを何というか。
- (16) 本州中部でシイ類、カシ類を中心とした照葉樹林が存在する標高700m付近までの地帯のことを何というか。
- (17) 本州中部でブナやミズナラの林が発達する夏緑樹林が存在する標高1700m付近までの地帯のことを何というか。
- (18) シラビソ、オオシラビソ、コメツガなどの針葉樹林が存在する標高2500m付近までの地帯のことを何というか。
- (19) これよりも標高が高い場所では、低温と強風で森林ができない、亜高山帯の上限を何というか。
- (20) (18) よりも標高が高い地帯のことを何というか。